

# 勤労観をはぐくむ低学年における道徳教育の工夫

## — 働くことのよさが実感できる道徳学習プログラムの開発を通して —

江田島市立大古小学校 江川 真由美

### 研究の要約

本研究は、勤労観をはぐくむ低学年における道徳教育の工夫について、働くことのよさが実感できる道徳学習プログラムの開発を通して考察したものである。文献研究から、低学年に勤労観をはぐくむためには、実際の場と結び付けながら、働くことのよさ「みんなの役に立つ」「仕事のやりがい」「自分の成長」を実感させていくことが大切であると分かった。そこで、「働くことのよさが実感できる道徳学習プログラム」を開発した。具体的には、働くことのよさを実感させるために、道徳の時間と特別活動、各教科との関連を図った構成とすること、道徳の時間には役割演技を取り入れて働くことの追体験をさせること、1枚の学習シートに他者評価やこれまでの自分との比較を取り入れることを工夫した。その結果、児童は意欲的に働こうとする態度が見られるようになり、勤労観をはぐくむことができると分かった。

**キーワード：勤労観 働くことのよさ 道徳学習プログラム**

## I 研究の目的

内閣府「子ども・若者白書」（平成25年）によると、若者無業者は63万人であり、いわゆる「ニート」は、社会問題になっていると指摘されている。中央教育審議会答申（平成20年）では、子供たち一人一人の勤労観・職業観を育てるキャリア教育を充実する必要があることが述べられている。また、小学校学習指導要領の道徳（平成20年）には、低学年の内容項目に、新たに4-（2）「働くことのよさを感じて、みんなのために働く。」が加わった。さらに特別活動においても、低学年の活動内容に、みんなのために働く態度を育成すること等に重点を置くことが加わった。このように、小学校の低学年から児童に勤労観をはぐくむことが求められている。

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」（平成25年）によると、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解等の要素をもつ「キャリアプランニング能力」について、低学年でよく指導していると答えた学校は23.2%であり、中・高学年に比べ著しく低い。このように、低学年における勤労観をはぐくむ指導が十分行われていないことに課題があると考ええる。

これらの課題を踏まえ、低学年において、児童に

勤労観をはぐくむことが必要であると考え、道徳の時間と特別活動、各教科との関連を図った「働くことのよさが実感できる道徳学習プログラム」を開発する。開発にあたっては、低学年において新たに加わった内容項目「働くことのよさを感じて、みんなのために働く。」を扱い、勤労観をはぐくむことを目的とする。

## II 研究の基本的な考え方

### 1 勤労観について

#### (1) 勤労観とは

三村隆男（2008）は、小学校のキャリア教育の展開を見据え、勤労観とは、「日常生活の中での役割の理解や考え方と役割を果たそうとする態度、および役割を果たす意味やその内容についての考え方（価値観）」<sup>1)</sup>であると述べている。そして、勤労観と職業観の関係を二層構造で示し、勤労観の土台の上に職業観が成り立つとした。

行安茂（平成21年）によると、「勤労には自らの目的を実現するために働くという面もあるが、職業のように、個人の生活を維持し、自分の幸福を追求するためと同時に、社会的分業によって社会を大きく支えている面もあり、共に重要である。」<sup>2)</sup>と述べている。

これらのことから、本研究において、小学校段階での勤労観とは、日常生活の中の役割を果たすことが、自分のためと集団のために大切であると理解し、働こうとする態度であると考えます。

## (2) 低学年に勤労観をはぐくむ道德教育

小学校学習指導要領の道德には、低学年の内容項目に、「働くことのよさを感じて、みんなのために働く。」が新たに加わった。

そして、この勤労観をはぐくむ指導の系統性として、高橋妃彩子（2011）は、表1のように整理している。

表1 勤労観をはぐくむ指導の系統性

低学年	みんなのために働く楽しさ、うれしさを感じ、やりがいをもつ。
中学年	自分の仕事分担を果たし、力を合わせて仕事をするものの大切さを理解する。
高学年	勤労が自分のためだけではなく社会生活を支えるものであることを理解し、勤労を尊ぶ心をもつ。

このように、高学年に向かうに従って、働くことの意義の理解が深まり、働くことは社会のために責任を果たすことへと価値が高まっていく。中でも、低学年においては、実際にみんなのために働く場を通して、働くことのよさを実感させることが、勤労観をはぐくむために大切であると考えます。

## 2 働くことのよさについて

### (1) 働くことのよさとは

小学校学習指導要領解説道德編（平成20年、以下「解説」とする。）では、低学年の段階について、「みんなのために働くことを楽しく感じている児童が多い。その実態を生かし、働くことで役に立つうれしさ、やりがい、自分の成長などを感じられるようにすることが大切である」<sup>3)</sup>と述べている。

また、和地孝之（平成23年）は、小学校低学年において、働くことのよさを「役に立つうれしさ」「やりがい」「自分の成長」の三つと捉え、これらを視点として道德の時間を工夫している。

石川洋（2010）は、仕事への張り合いのことである「やりがい」が、勤労観を高める上で大切なことを述べている。そして「やりがいの3要素」を示し、その三つが全て満たされる時、「やりがい」は最大限高まることを述べている。

これらを踏まえ、本研究において低学年における働くことのよさを表2のように整理した。

表2 低学年における働くことのよさ

本研究における働くことのよさ	和地の働くことの三つのよさ	石川の「やりがいの3要素」
「みんなの役に立つ」	「役に立つうれしさ」	自分が上げた成果が、チームや組織の中で必要とされ、適切に認められ、感謝される。
「仕事のやりがい」	「やりがい」	興味や好奇心、誇りを感じる仕事である。
「自分の成長」	「自分の成長」	自分の才能やスキルを生かし、成長できる。

低学年における働くことのよさを「みんなの役に立つ」「仕事のやりがい」「自分の成長」と捉え、この三つを実感させることで、勤労観をはぐくむことができると考える。また、石川（2010）の考えを援用し、低学年における働くことのよさの関係を図1に示す。三つの円が全て重なる部分が、最も勤労観が高まる場所である。

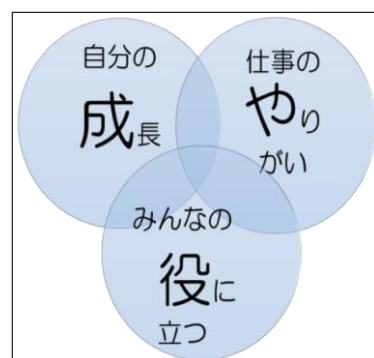


図1 働くことのよさの関係

### (2) 「みんなの役に立つ」「仕事のやりがい」「自分の成長」を実感させるために

小寺正一ら（2009）は、低学年の児童は、働くことを喜んでやり遂げようとするが、すぐに飽きてしまうという実態もあり、低学年の児童にとって、働いた後に感謝の言葉や気持ちを伝えてもらうことは、大切なかわりであることを述べている。さらに、児童が働いた後に、周りの人から感謝の言葉や気持ちを言われることで、働く喜びや幸せを実感でき、成長していくと述べている。

また、「解説」において、児童が自ら成長を実感できるようにする工夫として、学習を通して初めの段階と自分がどう変わったかが分かるような書く活動の工夫等が示されている。

そこで、他者評価やこれまでの自分と学習後の自分との比較を取り入れ、「みんなの役に立つ」「仕事のやりがい」「自分の成長」を実感させる道德学習プログラムを開発する。

### 3 働くことのよさが実感できる道德学習プログラムについて

#### (1) 道德の時間と特別活動、各教科をつなぐ工夫

「解説」では、勤労の内容項目の指導の観点として、学級の清掃や給食などの当番活動、家庭や地域での決められた仕事など、実際の場での意欲や態度に結び付けていくことが求められると述べている。

また、川崎友嗣（平成22年）は、小学校で勤労観をはぐくむ工夫について、各教科、道德、特別活動等全ての教育活動を通して推進していくことが求められ、これらをつなぐ工夫をすることが有効であると述べている。さらに、社会についての理解と社会とのかかわりの必要性について述べ、小学生にとっての社会はおのずと限定されており、「家庭から出発して学級・学校という身近な社会を知り、学級や学校とのかかわりや自分の役割を知るところから始めて地域とのかかわりへといったように、少しずつ社会を広げていくべきであろう。」<sup>4)</sup>と述べている。

そこで、3時間の道德の時間を要に、日常生活の中の役割や特別活動、働くことにかかわる学習をした国語科、生活科を関連させ、家庭、学級、地域とかかわる集団を広げながら、働くことのよさを実感させていく道德学習プログラムとして構成する。具体的には、国語で学んだ動物園の獣医の仕事や係活動の意義について考えたことや、生活科の町探検で出会った働く人々とかかわりを写真等を用いて視覚に訴え、想起させる。さらに、道德の時間に学んだ道德的实践力を、日常生活の中の役割や特別活動等実際の場での実践へとつないでいく。このように、働くことのよさが実感できる道德学習プログラム（以下「道德学習プログラム」とする。）を開発する。

#### (2) 道德の時間の工夫について

白木みどり（2010）は、道德教育とキャリア教育の関連を踏まえ、道德の時間における効果的なアプローチとして、道德の時間では、資料から得る知的理解はもちろんのこと、その過程における表現活動を重視しなければならないと述べている。また、藤永芳純ら（2012）は、道德の時間における役割演技とは、演技的な表現活動を通して児童を主題の展開に参加させるもので、ねらいとする道德的価値についての共感的な理解を深め、児童自らに道德的心情や道德的判断を考えさせる上で効果があるとしている。「解説」では、表現活動の工夫として、実際の場面の追体験は実感的な理解につながり効果的であ

ることを述べている。そこで、道德の時間の展開では、働くことの追体験をしながら、働くことのよさを実感していく学習となるよう、役割演技を取り入れる。

#### (3) 学習シートの工夫について

堀哲夫（平成15年）は、学習履歴が1枚の用紙の中に収まるように工夫する、一枚ポートフォリオ法を提唱した。そして、その最大のメリットは、学習者が自分自身の変容に気付き、学習の意味を感得できることであると述べている。

そこで、1枚の学習シートを工夫し、「道德学習プログラム」の学習において、児童の意識が継続・発展し、自分の成長が分かるようにする。具体的には、縦軸を、家庭、学級、地域という児童のかかわる集団の広がりにする。そして、横軸を、働くことのよさを実感していく学習の流れにする。これまでの自分との比較をし「自分の成長」を感じるために、働くことに対しての否定的な気持ちや肯定的な気持ちを書く欄を設けたり、他者からの評価の付箋を貼る欄を設けたりする。こうして、働くことのよさを視覚的、実感的に積み重ねていけるようにする。

これまでの考えを基に、「道德学習プログラム」の構想図を図2に示す。また、学習シートを次ページ図3に示す。

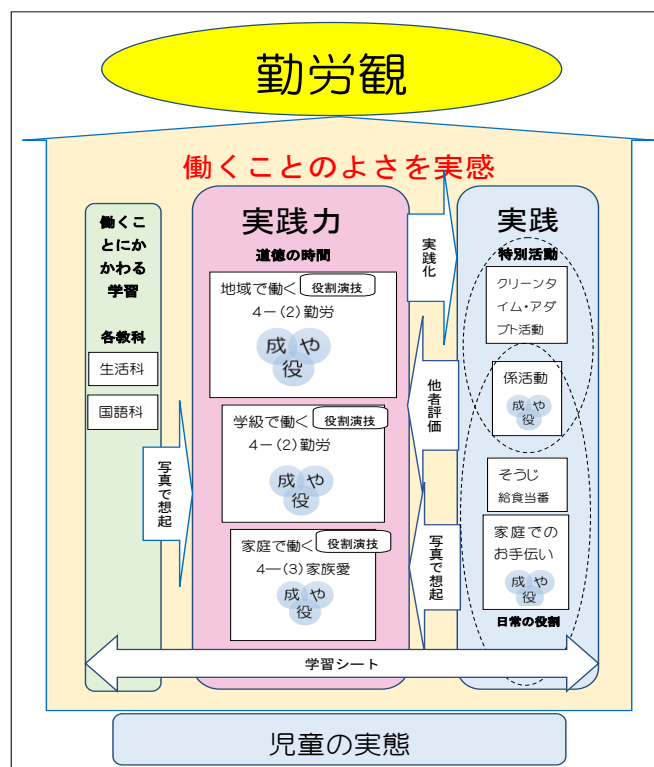


図2 働くことのよさが実感できる道德学習プログラム構想図

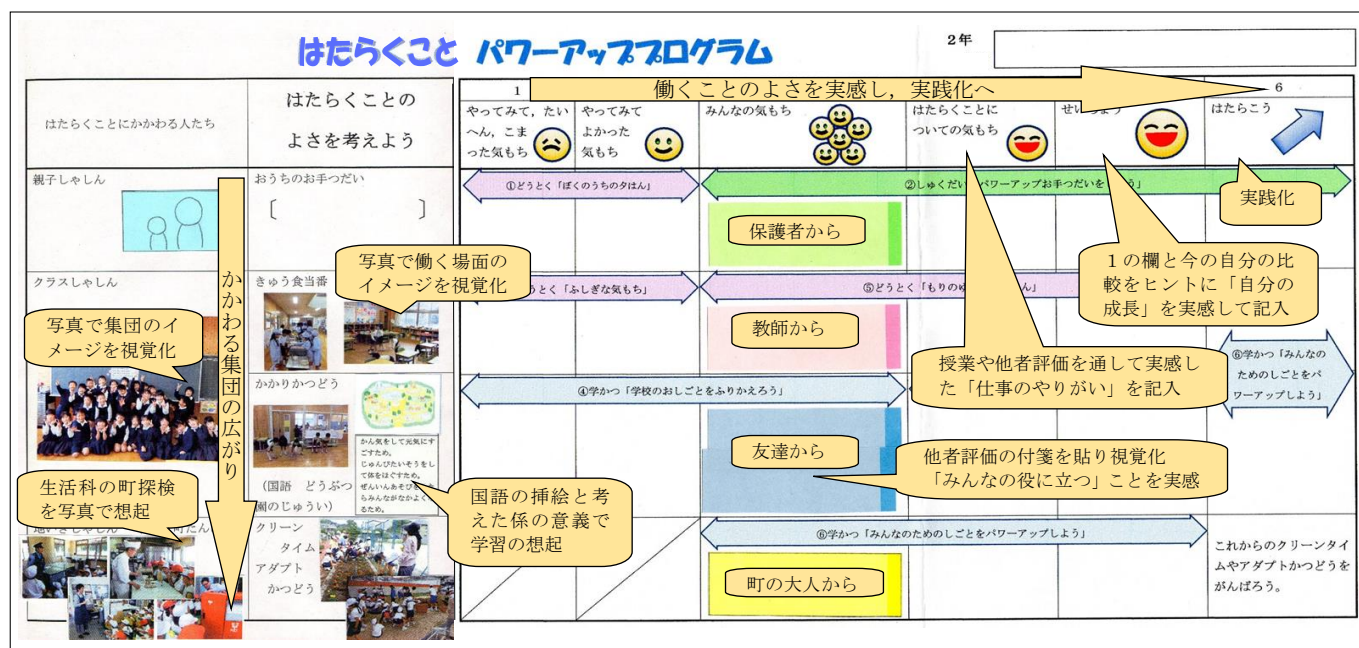


図3 働くことのよさが実感できる学習シート

### Ⅲ 研究の仮説及び検証の視点と方法

#### 1 研究の仮説

道徳の時間と特別活動、各教科との関連を図りながら、道徳の時間の役割演技や学習シートを工夫した「働くことのよさが実感できる道徳学習プログラム」を行うことで、働くことのよさを実感させることができ、児童の勤労観をはぐくむことができるであろう。

#### 2 検証の視点と方法

検証の視点と方法について、表3に示す。

表3 検証の視点と方法

検証の視点	方法
「道徳学習プログラム」は、勤労観をはぐくむのに有効であったか。	働くことについてのアンケート（事前・事後）
「道徳学習プログラム」の工夫は、働くことのよさを実感させるのに有効であったか。	手立てについてのアンケート（事後）
(1) 道徳の時間と特別活動、各教科を関連させたこと	学習シート
(2) 道徳の時間に役割演技を取り入れたこと	ワークシート
(3) 学習シートの工夫（他者評価、これまでの自分との比較）	道徳の時間アンケート 授業記録 行動観察

#### 3 検証のためのアンケート

「道徳学習プログラム」の有効性について検証するために、以下のアンケートを実施する。

- 働くことについてのアンケート（事前・事後）  
※ 以下、「働くアンケート」とする。
- 手立てについてのアンケート（事後）  
※ 以下、「手立てアンケート」とする。
- 道徳の時間アンケート（各道徳の時間）

### Ⅳ 研究授業について

#### 1 研究授業の内容

- 期 間 平成25年12月13日～平成25年12月19日
- 対 象 所属校第2学年（1学級27人）  
※ 検証は、欠席児童1人を除く26人のデータで行った。
- 単元名 「はたらくことパワーアッププログラム」（全6時間）
- 目 標  
働くことのよさを感じて、自分やみんなのために働く。

#### 2 授業の概要

道徳の時間と特別活動等との関連を図った「道徳学習プログラム」に基づき、4-(3)家族愛、4-(2)勤労を主題とした道徳の時間を中心に授業を行った。「道徳学習プログラム」の概要を次ページ表4に示す。



表4 「働くことのよさが実感できる道徳学習プログラム」の概要

時	月日・時間 主題・内容項目 資料名(出典)	ねらい	主な学習の流れ 主な発問(○) 中心発問(◎)
1	12月13日 道徳の時間 主題「手伝うよ」 4-(3) 家族愛 資料「ぼくのうちの夕はん」(文溪堂)	初めは、お手伝いをやりたくなかったが、一生懸命お米をといで、家族に褒められたり感謝されたりした時のまさきの気持ちに共感することを通して、家族の一員として役割を果たすことにやりがいを感じ、家族のために進んで働くこととする心情を育てる。	1 自分の家でのお手伝いを想起する。(学習シート) 2 資料を聞いて話し合う。 ○ お手伝いを頼まれたまさきは、どんなことを考えているでしょう。 ○ 手が冷たくても一生懸命お米をといでいるまさきはどんなことを考えているでしょう。(役割演技) ◎ お米をといで、お父さんに褒められたり、お母さんに感謝されたりして「ぼくにまかせてね。」と言った時、まさきはどんなことを考えているでしょう。 3 お手伝いをしてよかったと思った経験を振り返る。(学習シート) 4 教師の説話を聞く。
2	12月13～19日 家庭学習 「パワーアップお手伝い」	家庭学習で、自分にできそうなお手伝いの実践をし(1週間)、保護者に「役に立った」「成長した」などの評価をもらう。	1 第1時の道徳の時間と、ここまで(12月17日)の家庭学習を振り返る。(学習シート) 2 おうちの人からの言葉を読む。(学習シート) 3 「はたらくことについての気持ち」「せいちょう」について書く。(学習シート)
3	12月17日 道徳の時間 主題「働くって気持ちいい」 4-(2) 勤労 資料「ふしぎな気持ち」(学研)	働くことを疲れるからと初めはやりたくなかったが、実際に働いてみると「ふしぎな気持ち」になっていき、働くことの気持ちよさを感じていくきつねの気持ちに共感することを通して、働くことそのものに爽快感を感じ、自分やみんなのために働くこととする心情を育てる。	1 自分の掃除、給食当番の活動について想起する。(学習シート) 2 資料を聞いて話し合う。 ○ みんながしている森の広場の掃除をやりたくないと言っているコンは、どんなことを考えているでしょう。 ○ コンとボコになって掃除をしながら「ふしぎな気持ち」を考えましょう。(役割演技) ◎ 掃除をしてうれしくなって、森のみんなに手を振っている時、コンはどんなことを考えているでしょう。 3 働いて気持ちよかったと思うことにはどんなことがあるか、自分の経験を振り返る。(学習シート) 4 教師の説話を聞く。
4	12月17日 学級活動 「係の仕事を振り返ろう」	自分の係活動について振り返り、自分の役割に気付き、進んで果たそうとするとともに、仲良く助け合い、学校生活を楽しくすることができるようにする。また、自他の頑張りに気付き、それらを伝え合うことを通して、働くことのよさを感じることができるようにする。	1 国語の学習で、係活動についてそれぞれがまとめたことを想起する。(学習シート)(写真) 2 係活動について振り返る。(学習シート) 3 「かかりのがんばりしんぶん」を書く。 4 「かかりのがんばりしんぶん」を見合い、友達に一言を書く。 5 活動の振り返りをする。
5	12月18日 道徳の時間 主題「みんなのために働く」 4-(2) 勤労 資料「もりのゆうびんやさん」(文部科学省)	森のみんなのために心を込めて郵便物を届け、感謝されてやりがいを感じるくまの気持ちに共感することを通して、働くことはみんなの役に立って、そのことがやりがいにつながることを感じ、みんなのために働くこととする態度を育てる。	1 なりたい職業について考える。 2 資料を聞いて話し合う。 ○ 雪の日に、やぎじいさんの喜ぶ顔を思い浮かべながら急ぎ足で配達に行き、丁寧に小包を届けるくまさんはどんなことを考えているでしょう。(役割演技) ◎ 働いた後、家に帰って、りすさんからのお手紙を読んだくまさんはどんなことを考えているでしょう。 3 くまさんのように、みんなが働いたことについて、届いているメッセージを読む。(学習シート) 4 生活科の学習を想起する。(学習シート)(写真)
6	12月18日 学級活動 「みんなのための仕事をパワーアップしよう」	地域での自分たちの仕事について振り返り、働くことのよさを感じることができるようになる。また、自分の役割に気付き、進んで果たそうするとともに、学校生活を楽しくすることができるようにする。	1 地域でのクリーンタイムやアダプト活動について想起する。(学習シート) 2 みんなのための仕事で、今から自分ができようことを考え、実践する。 3 実践を振り返る。 4 「道徳学習プログラム」の振り返りをする。(学習シート)

## V 研究授業の分析と考察

### 1 「道徳学習プログラム」は、勤労観をはぐくむのに有効であったか

「道徳学習プログラム」は勤労観をはぐくむのに有効であったか、事前と事後の「働くアンケート」において、表5のような項目から分析を行った。

まず、働くこととする態度について、お手伝い、給食当番、掃除、係活動についてそれぞれの評定平均値の事前と事後を比べると、お手伝いについて0.5ポイント上昇した。給食当番、掃除、係活動については、事前の評定平均値が約3.8ポイントと高く、事後は0.1ポイント以下の伸びではあったが、上昇した。

次に、働くことのよさを実感しているかについて、お手伝い、給食当番、掃除、係活動についてそれぞ

表5 「働くアンケート」の項目と分析する内容

分析に用いたアンケート項目	分析する内容
① 働くことを頑張っていますか。 (4段階評定尺度法)	働くこととする態度
② 働いてよかったと思いますか。 (4段階評定尺度法)	働くことのよさの実感
③ ②のわけを書きましょう。 (記述)	働くことを肯定的・否定的に捉えている理由

れの評定平均値と、 $t$ 検定の結果を次ページ図4に示す。

お手伝い、給食当番、係活動については、有意に上昇した。掃除については、事前のポイントが高く有意な上昇とはなかったが、事後の評定平均値が上昇した。

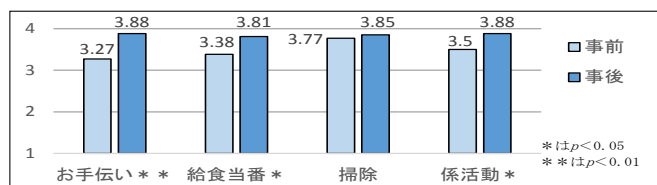


図4 働くことのよさを実感している評価平均値

さらに、働くことを肯定的に捉えている理由の記述を、表6のような見取りの視点で分類し、お手伝い、係活動等それぞれの場面についての全ての記述数を合計した結果が図5である。

表6 児童の記述を見取る視点

働くことのよさ	記述の見取りの視点
「みんなの役に立つ」	みんな・他者のため 人の役に立つ、みんなを意識
「仕事のやりがい」	気持ちよさ、うれしさ、楽しさ やってよかった、達成感
「自分の成長」	～けど～になった。(良い変化) 上手になった。

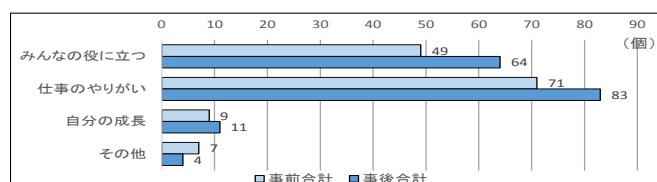


図5 働くことを肯定的に捉えている理由

「働くアンケート」では、事前に、働くことを「つかれる」「よごれる」「むずかしい」等の理由で否定的に捉えている記述が18個あった。しかし、事後では、全員が働くことを肯定的に捉え、「みんなの役に立つ」「仕事のやりがい」「自分の成長」の実感を見取ることができる記述数が増加した。

特に、家庭でのお手伝いについて、働くことのよさを実感し働こうとする態度への変容が見られた。また、給食当番、掃除、係活動については、学校での決められた役割として、事前には否定的な気持ちで働いていた児童も、事後には働くことのよさを実感し意欲的に働こうとする態度が見られるようになった。

以上のことから、「道徳学習プログラム」は、勤労観をはぐくむのに有効であったと考える。

## 2 「道徳学習プログラム」の工夫は、働くことのよさを実感させるのに有効であったか

### (1) 道徳の時間と特別活動、各教科を関連させたこと

まず、道徳の時間と特別活動を関連させたことについて、「手立てアンケート」の結果と授業の様子、児童Aの変容から考察する。

「手立てアンケート」において、お手伝い、学級活動について、「働くことについて考えるためにどのくらい役に立ったと思うか」という項目に、肯定的な回答をした児童は26人(100%)であった。また、感想欄には、それらの実践の場について「みんなの役に立つ」「自分の成長」の実感を見取ることができる以下のような記述があった。

ぼくはかかしのしごとをもっとがんばってちいきの人やみんなのやくにたつようにがんばっていききたいと思います。  
こころにのこったことは、さいしょはごはんをつぐのがむずかしかったけどおとうさんとやってできたことです。

#### 特別活動等の関連についての児童の記述の一部

第6時の学級活動で、みんなのための仕事に挑戦したところ、全員が自発的にやりたい仕事を決め、意欲的に係活動や掃除に取り組むことができた。

児童Aは、事前の「働くアンケート」では、家でのお手伝いを全然していないと回答していた。しかし、道徳の授業の中で登場人物の気持ちに寄り添い、「ぼくが毎日米をとぐからおかあさんは手つだわなくてもいいよ。米をとぐときは毎日まかせてね。」と働こうとする気持ちをワークシートに書き表していた。道徳の時間アンケートでは、これからお手伝いをしようと思うと回答し、挑戦したいお手伝いを記入することができた。その後の家庭学習で、右のように1週間お皿洗いを続けることができ、「おさがピカピカになってきもちよかったです。これからもずっとつづけたいです。」と記述した。これらのことから、初めはお手伝いについて否定的だったが、道徳の時間に登場人物の気持ちに寄り添うことで、家族のことを考える視点が生まれ、働こうとする意欲を高めることができたと考えられる。そして、意欲が高まったところで、お手伝いの実践を仕組んだことで「仕事のやりがい」を実感し、働こうとする態度の育成につながったと考える。

児童Aの家庭学習プリント

次に、各教科との関連を視覚化で想起させたことについて、授業の様子と「手立てアンケート」の結果から考察する。

第4時の学級活動では、国語の学習の中で考えた係活動の意義について、写真や掲示物等を用いて想起させた。すると、係の仕事はみんなのための仕事であることを意識する発表が見られた。また、第5時の道徳の時間では、生活科の町探検で出会った働く人々を写真等を用いて想起させた。その結果、「町の大人」と聞いて複数の人をイメージした記述をするなど、体験から具体的なイメージを膨らませることができた。そして、「手立てアンケート」で以下のような記述があるなど、全児童が、視覚化により各教科の学習を想起させたことを肯定的に回答した。

しゃしんにいろんなことがえがかれてあって思い出すのにちょうど良かったです。今までわすれていたことも頭の中にしっかりと入りました。またわすれてしまった時はシートを見て思い出します。

#### 視覚化の手立てにかかわる児童の記述の一部

これらのことから、道徳の時間と特別活動、各教科を関連させたことは、「みんなの役に立つ」「仕事のやりがい」「自分の成長」を実感させるのに有効であったと考える。

### (2) 道徳の時間に役割演技を取り入れたこと

役割演技について、「手立てアンケート」の結果と児童Bの変容から考察する。

「手立てアンケート」において、道徳の時間の役割演技について、「働くことについて考えるためにどのくらい役に立ったと思うか」という項目に、肯定的な回答をした児童は26人（100%）であった。

児童Bは、事前の「働くアンケート」で、「仕事をしてよかったと思うか」「働くことはみんなの役に立つと思うか」について否定的な回答をしていた。そこで、第3時の道徳の時間には、二人組での役割演技を行った。児童Bはほうきで掃除をしながら、登場人物の気持ちに寄り添い、「掃除をしたら気持ちがすっきりするね。」「気持ちが切り替わってやる気が出たよ。」等、「仕事のやりがい」の実感や働くこととする意欲を見取ることができた内容を発表した。そして、「手立てアンケート」で役割演技がとても役に立ったと回答し、事後の「働くアンケート」で「仕事をしてよかったと思うか」「働くことはみんなの役に立つと思うか」について「とても」と肯定的な回答に変わった。



役割演技の様子

これらの結果から、道徳の時間に役割演技を取り入れたことは、「仕事のやりがい」や「みんなの役に立つ」ことを実感させるのに有効であったと考える。

る。それが、働くことを否定的に捉えていた児童にも、肯定的な気持ちに切り替えるきっかけとなったと考える。

### (3) 学習シートの工夫

学習シートの全体的な有効性について、「手立てアンケート」の結果を述べる。学習シートについて、「働くことについて考えるためにどのくらい役に立ったと思うか」という項目に、肯定的な回答をした児童は、26人（100%）であった。

#### ア 学習シートの他者評価

他者評価について、児童Cの変容から考察する。

児童Cは、「働くアンケート」では、事前にクリンタイムやアダプト活動をしてとてもよかったと回答し、その理由を「ジュースやおちやがもらえるから。」と記述していた。第6時の学級活動では、これらの活動について、町の人からの言葉を読んだ。それによって、学習シートに「みんなの役に立つ」実感と働くこととする態度を見取ることができる、以下のような記述をした。

町の人からの言葉	他者評価後の記述
おとながおとしたごみも多いのに、町のためにがんばってごみをひろってえらいね。きれいになって気持ちがいいよ。町のよくに立っているよ。ありがとう。	そうなんだ。よくに立ってるんだ。これから人もよくに立とう。

他者評価の言葉と児童Cの記述

そして、事後には、クリンタイムやアダプト活動をしてとてもよかったと回答し、その理由を「たくさん人の『ありがとう』という声がたくさん聞けたから。」と記述した。

この結果から、他者評価の手立てによって、自分が働いたことが「みんなの役に立つ」ということを視覚的に捉えられ、実感できたと考える。また、学習を重ねていくにしたがって、図6のように、1枚の学習シートに他者評価の言葉が増えていき、いろいろな集団において役に立っていることが視覚的に捉えられ、「みんなの役に立つ」ことの実感を積み重ねることができたと考える。それにより、初めは、物をもらえることを働くことのよさ

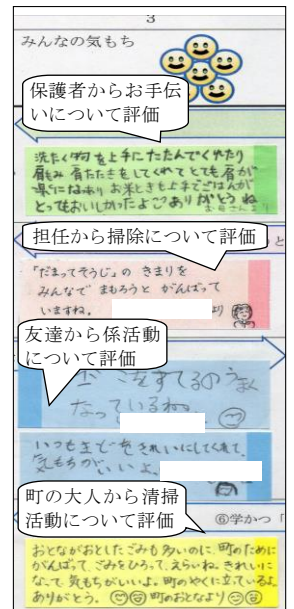


図6 学習シートの他者評価の欄



と考えていた児童も、「みんなの役に立つ」ことを実感して「仕事のやりがい」を感じ、働こうとする態度につながったと考える。

これらのことから、学習シートの他者評価は、「みんなの役に立つ」「仕事のやりがい」を実感させるのに有効であったと考える。

### イ 学習シートのこれまでの自分との比較

これまでの自分との比較について、児童D、Eの変容から考察する。

児童Dは、「働くアンケート」では、事前に働くことで自分が成長するとは全然思わないと否定的な回答をしていた。また、第1時の道德の時間に、お手伝いについて大変・困った気持ちを想起させたところ、「じゃがいものかわむぎでゆびがきれた。」と記述した。その後の家庭学習では別のお手伝いに挑戦したが、「自分の成長」を書く際悩んで進まなかった。そこで、前述の欄をヒントに今の自分との比較をさせると、図7のように「まえはゆびをきっていたけど、できたときもあったからうれしかったです。」と「自分の成長」の実感を見取ることができる記述をした。その後も同様に比較をしながら「自分の成長」の記述を積み重ね、事後には、働くことで自分が成長するととても思うと肯定的な回答に変わった。

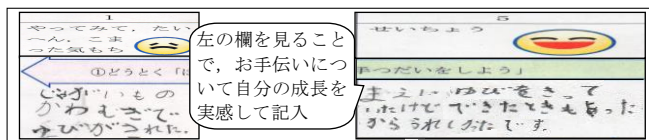


図7 児童Dの「自分の成長」にかかわる欄

児童Eは、図8のように、家庭で働くことについての成長から学校・地域という社会で働くことについての成長へと学習シートの「自分の成長」の記述を積み重ねた。そして最後の「自分の成長」の欄に、「わたしは学校のじゅぎょうだけじゃなくてあそぶときにもごみがおちていたときにひろえるようになりました。」と、進んで働こうとする態度への変容を記述した。

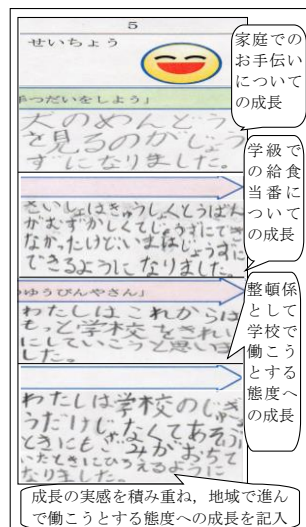


図8 児童Eの「自分の成長」の欄

これらの結果から、これまでの自分との比較を手掛かりとして、「自分の成長」に気付くことができたと考える。また1枚の学習シートで、「自分の成長」の記述が増えていくことが視覚的に捉えられ、「自分の成長」の実感も積み重ねることができたと考える。それにより、働くことで自分が成長すると思っていなかった児童も、「自分の成長」を実感することができたと考える。また、「自分の成長」の実感が働こうとする態度につながったと考える。

これらのことから、学習シートのこれまでの自分との比較は、「自分の成長」を実感させるのに有効であったと考える。

以上のことから、学習シートの工夫は、働くことのよさを実感させるのに有効であったと考える。

## VI 研究のまとめ

### 1 研究の成果

「働くことのよさを実感できる道德学習プログラム」を実践することで、進んで働いていなかった児童や働くことを否定的に捉えていた児童も、働くことのよさを実感し、働こうとする態度が見られるようになった。このことから、本学習プログラムは勤労観をはぐくむために有効であることが分かった。

### 2 今後の課題

- 本道德学習プログラムでは、働くことのよさのうち、「自分の成長」について、最も実感させることが難しかった。「自分の成長」を更に実感させるための手立てを考えることが必要である。
- 勤労観をはぐくむ指導の系統性を踏まえると、学年が上がるに従い、友達との協力、集団への所属感が必要になることから、中・高学年においても、学級活動での集団づくり等、特別活動を関連させた勤労観をはぐくむ道德学習プログラムを開発し、系統的に取り組むことが必要である。

### 【引用文献】

- 1) 三村隆男 (2008) : 『新訂キャリア教育入門—その理論と実践のために—』実業之日本社 p.63
- 2) 行安茂 (平成21年) : 『道德教育の理論と実践—新学習指導要領の内容研究—』教育開発研究所 pp.145-146
- 3) 文部科学省 (平成20年) : 『小学校学習指導要領解説道徳編』東洋館出版社 p.46
- 4) 川崎友嗣 (平成22年) : 「小学校における勤労観・職業観をはぐくむ教育」『初等教育資料』東洋館出版社 p.12